



シアの友人からプレゼントしてもらった「ボス」という名前のコーカサス犬の話をしたい。正式な名前は（カフカースカヤ・アプチャルカ）というからロシアの牧羊犬である。最近、モスクワに行つて同じ犬種を見たので楽しくも懐かしいロシア犬「ボス」と一緒に暮らした日々を思い出した。生後1週間の3<sup>キ</sup>の可愛い子犬だから軽い気持ちで日本に連れてきたのだが、あつという間に20<sup>キ</sup>になった。それだけでも大変なのだが、最終的には80<sup>キ</sup>まで成長した。まさか、そこまで大きくなるとは思わなかったが、とりあえず鉄工所の友人に頼んでわが家の庭に動物園なみの檻を用意してもらった。

ところが、寂しかったのか檻に入ると吠えるので近所からクレームがついた。仕方がないので数日間は一緒に寝てあげると静かになった。だが3日ほどたつてそろそろ慣れたかと思ひ、一匹にするともた吠えだした。迫力のある雄叫びは近所の老人夫婦にとっては恐怖と感ぜられたのか、警察官まで見学にいられたので、仕方なく息子の部屋を開放して家の中で飼うことになった。毎日3回は散歩に連れて行くので近所ではちよつとした有名犬になった。TV局からも出演の依頼がきたが、知らない人には人見知りしてなつかないのが苦勞をした。ボスは何度か脱走をしたことがあ

る。たいへん賢いので玄関のドアを上手く開けて脱走するのである。朝の散歩は私の役割だが、昼の散歩は妻の役割だった。女性の力では制御できないので3度はかり散歩の最中に逃走して大騒ぎになったこともあった。普通は7歳くらいで死んでしまう大型犬だが、ボスは13年間も一緒に過ごした。私にとって最高のロシアのお友達だった。

### 実は風上に立っているロシア

わが社ではロシア貿易の比率が高いため、よくロシアや中央アジアに出張する。ロシアとの取引は（中国取引と違って）一定の馴染みにならないとビジネスがスムーズに進まないことが多い。でも、一旦お友達になると親類の様に深いお付き合いになる。ただし、一般的に日本人にとって、ロシア人は第一印象がブスツとしていて、馴染めないケースが多いように思う。

今、ロシアと欧米（NATO）の関係は、ウクライナの内乱の影響で悪化している。しかし、ロシアには技術力と資源がある。例えば、チタンの埋蔵量が世界2位のロシアは、航空機部材に使用されるチタンの過半を抑え



コーカサス犬・ボス

## AROUND THE WORLD

# 山師の手帳 中村繁夫 Shigeo Nakamura

### 第34回 ロシアの犬を飼って ロシア文化を理解する

写真・生津勝隆 Masataka Namazu

ているので、欧米との関係がさらに悪化すれば、ボーイングとエアバスにチタンの供給を止めるかもしれない。また、ロシアの世界最大の非鉄金属会社「ノリリスクニツケル」が出荷を止めれば、ただでさえインドネシアのニツケルが出てこないのに、世界はパニックになる。さらに、欧米の航空会社はシベリア上空の通過が制限されるという情報もある。そうすると、JALとANAの欧州便は乗客が増えるかもしれない。

いずれにせよ、せっかくプーチン大統領がこの秋に日本訪問が決まっていたのに、予定が流れるとすれば残念だ。米露関係や欧露関係のパイプ役になるくらいの使命感がなければ、日本はアジアのリーダーにはなれないのではないか。プーチン大統領は今も「日露関係は継続的に発展している」といつているし、日露の貿易高が増えていることも挙げて「日露の2国間関係で最も難しい問題の解決のための良い環境ができていく」と話している。ロシアは日本にとつても最も近い外国の一つだ。ロシアの方には叱られるかもしれないが、ロシア人との付き合いは、「ボス」と私の関係に少し似ていると時々思っている。継続して交流することこそが必要だ。

なかむら・しげお レアメタル専門商社、アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）社長。日本におけるレアメタルの第一人者。世界100カ国を訪問し、世界制覇を目指す。

